

お昼どきのスイーツタイムコンサートときたら、やっぱり「爽やか」がいいですよ。「自然」と「情景」のテーマに基づく曲を、ドイツ系の一曲でまとめ、フレッシュな気分になれるようなプログラミングを今回試みました。

ドイツと言いながら、いきなりノルウェー人のグリーグの「抒情小曲集」で始まるコンサートですが、グリーグはドイツのライブチビで学生時代を過ごした上に、ブラームスの親しい友人でもあり、ドイツとは深く長く関係があった作曲家です。丁度10年前、彼のヴァイオリンソナタの全3曲を録音する機会に恵まれ、それをきっかけにちよっぴり「グリーグ・オタク」になった時期がありました。CDを出した結果、全3曲のリサイタルを頼まれるようになり、さしあたり穴埋めとして元々ピアノ独奏の為の「抒情小曲集」を編曲しようと最初は思っていたものの、譜面を勉強していくに連れて、どれも名作である事に心を強く打たれ、むしろ66曲ある中から選ぶ方に苦労した記憶が今でも残っています。その成果のうち3曲を、今回10年後に再び演奏することになり、自分の人生を振り返るような、少し不思議な気分ではあります。

ブラームスの第1番 作品78のソナタは、「雨の歌」として知られていますが、第3楽章冒頭の主題がブラームス自身による歌曲「雨の歌 Regenlied」作品59-3と「余韻 Nachklang」作品59-4の主題を用いている事から来るものです。「雨の歌」は、クララ・シューマンが特に好んでいた歌曲だったそうで、それを引用することでクララへの思いを表現したと言われています。いずれの歌曲もメランコリーな気分に満ちたもので、冒頭の歌詞だけ取ってもソナタ全体への理解が深まると思います。

【雨の歌】 雨よ降れ、そして私が子供の頃に  
雨が砂の中で泡立つ時にその時に見た夢を再び現わしてくれ！

【余韻】 木々より落ちる雨は青草の上に落ち  
わが悲しき目より流れた涙は頬をぬらす。

シューマンの「森の情景 Waldszenen」作品82を初めて耳にしたのは、フランスを代表するピアノの巨匠、アルフレッド・コルトー(1877-1962)による録音でした。コルトー独特の歌い回しや、スケールの大きい音楽作りに憧れ、取り憑かれるように彼の録音を片っ端から聴き込んでいた頃がありましたが、彼から受けた影響は、ヴァイオリニストである私にとっても大変大きかったと思います。今回はヴァイオリンの名手ハイフェッツの師匠であったレオポルド・アウアーの編曲による「予言の鳥 Der Vogel als Prophet」と、私自身の編曲の「別れ Abschied」の2曲を演奏できることを、とても嬉しく思っています。

ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番作品24は、「スプリング・ソナタ」の愛称で親しまれている、大変有名な曲であります。この通称はベートーヴェン自身によるものではなく、ベートーヴェンの没後、出版社が勝手に付けたものです。とは言え、ベートーヴェンの作品の中では最も快活で爽やかな曲の一つでありますし、どこことなく春めいた雰囲気が出てくる感じは否定できません。正直なところ、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタが10曲もある中、5番だけがやたら演奏されることに長く違和感を持ち、若干避けて通ってきたソナタではあります。が、名作ですね、やっぱり！

お昼のひとつときに、どうぞこれらの美しい作品の数々を楽しんでいただければ嬉しいです。

佐藤 俊介



## 佐藤 俊介 (Shunske Sato / ヴァイオリン)

モダン、バロック双方の楽器を弾きこなす稀有なヴァイオリニストとして高い評価を受けるとともに、活発にコンサート活動を行っている。バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッハ協会のコンサートマスターとして。また、クリスティーン・ショルンスハイム、鈴木秀美、リチャード・エガーら、古楽界の重鎮たちと定期的に室内楽を演奏している。モダンの分野では、日本の主要オーケストラはもちろん、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団、バイエルン放送響、フランス放送フィル、ロシア国立響と共演。アメリカでは、10歳でフィラデルフィア管弦楽団にデビューして以来、ボルティモア響、ワシントン・ナショナル響、シアトル響など、名だたるオーケストラと共演している。

2010年、ライブツィヒの第17回 J.S.バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞など受賞も数多い。

録音では第62回文化庁芸術祭で大賞を受賞した「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」や、最新盤「テレマン：無伴奏ヴァイオリンのための12の幻想曲」、また世界で初めてガット弦とバロック弓を使用して歴史的奏法で演奏した「パガニーニ：24のカプリース」などがある。

東京生まれ。パリで、モダン・ヴァイオリンをジュラル・プーレに、ミュンヘンでバロック・ヴァイオリンをメアリー・ウティガーに師事する以前は、ニューヨークのジュリアード・スクールでドレシー・ディレイと川崎雅夫に師事。2013年よりアムステルダム音楽院古楽科教授を務める。2018/19年シーズンよりオランダ・バッハ協会音楽監督就任予定。

## スーアン・チャイ (Shuann Chai / ピアノ)

ピアノとヒストリカル・ピアノの双方で活躍するピアニスト。ニューイングランド音楽院及びハーグ王立音楽院で学んだ。ヒストリカル・ピアノによるベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲演奏会、ジョン・ケージ、プロコフィエフの音楽とモダン・ダンスによるコラボレーション企画を成功させている。2010年よりオランダのザーンダイク・ピアノフォルテ音楽祭の芸術監督を務めている。

交通アクセス  
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分



名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008  
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716  
E-mail info@munetsuguhall.com  
URL www.munetsuguhall.com  
宗次ホールチケットセンター  
営業時間:10:00~18:00  
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

**宗次フレンズ 会員募集中!!**

宗次ホールは  
会員登録していただいた方に毎月無料で  
新作チラシをご自宅にお届けします。

**会員登録・年会費 無料**

詳しくは、宗次ホール(052-265-1715)までお問合せ下さい。